ココロとココロ
～届け 私たちの思い～

サイクロン救援活動で学ぶ、思いやりの心

2008年5月2日、ミャンマーを襲ったサイクロン「ナルギス」は、死者・行方不明者14万人という甚大な被害をもたらした。JICAは国際緊急援助隊（医療チーム）を派遣。NPO法人地球市民ACTかながわ（TPAK）も05年から支援を続けるタンリエン孤児院の緊急支援に立ち上がった。

暗い空に、たくさんモノが飛んでいた

「ようやく現地と連絡が取れた！」

NPO法人地球市民ACTかながわ（TPAK）事務局長の伊吾田善行さんが一息ついたのは、〝巨大サイクロン、ミャンマー南部を直撃〟と報道されてから1週間後の5月9日だった。その間、メディアで伝えられる死者、行方不明者の数は増え続ける。それも並みの数ではない。中心都市ヤンゴンから南へ40キロ、TPAKが支援するタンリエン孤児院には245人の子どもたちが暮らしている。子どもたちは、お坊さんたちは、無事だろうか？ 伊吾田さんの胸にはさまざまな思いが巡っていた。

幸い孤児院は高潮の被害から免れ、死者を出すことはなかった。猛威を振るったサイクロンの中で、これは奇跡的といえる。しかし、敷地内に9棟ある建物は6棟が全壊、3棟が半壊。水道は壊れ、菜園も水没した。子どもたちが受けた心の傷も相当なものだろう。

しかし、タンリエン地区にはどこからも支援の手は差し伸べられていなかった。TPAKは、インターネットなどを使って資金を募り、2週間後、伊吾田さんが現地に飛んだ。ヤンゴンの町から多くの緑が消え、いつもの美しい町並みは一変していた。

「夕方から風と雨が強くなってきて、後ろの建物に逃げたんだ。空にいろんなものが飛んでいて怖かったよ。みんな、ぶるぶる震えていた」

孤児院に住む10歳の少年は恐怖の体験を話してくれた。緊急の支援が必要だった。

まず、子どもたちが安心して眠れる家と、水道設備を修復した。そして1トンのコメを運び込んだ。避難してきた周辺住民を含む、約1000人、200世帯の1週間分だ。また、マラリアやデング熱といった感染症のまん延を防ぐために、蚊帳や石けん、洗剤なども孤児院に配布した。それが、タンリエン地区に入った最初の支援となった。

タンリエン孤児院の子どもたち。6段階の正しい手洗いを、歌とジェスチャーで学んでいる

国際協力は〝半径3メートルから〟始まっている

TPAKは2005年から、子どもたちに手洗い、歯磨き、爪切りを指導し、安全な水を供給するための設備を建設するなど、衛生環境の改善を中心に孤児院を支援してきた。しかし、今回の被害を目の当たりにして、新たな支援が必要なことを痛感する。いつかまた襲ってくるに違いないサイクロンに備えて強固な建物を建設しよう。

僧侶や檀家の方々など。タンリエン地区での協力者の皆さん

食事は質素でコメと野菜のみ。衛生環境が悪く、素手で食べるため、下痢などの感染症に苦しんでいる子どももいた

年が明けた09年1月1日、子どもたちの教室と寮も兼ね、万一の時には近隣の人々も収容できるシェルターの建設が始まった。強い暴風雨に耐えられるように、地下1・5メートルからコンクリートで基礎を打ち、1階の床を地上から1メートル上げた。この基礎と1階部分の建築費にJICA基金が利用された。そして4カ月後、被災から1年を経た09年5月に、全面鉄筋コンクリート製の頑丈な2階建ての建屋が完成。TPAKは事業計画から建設業者の選定、工事の進行、事業・決算報告など、一連の工程でサポートしてきた。しかし、あくまでこのプロジェクトの中心となったのは、僧侶や檀家の人々、そして地域住民だった。

「いつも思うことですが…」と前置きして、伊吾田さんが語る。

「国際協力の現場で、私たちは、普段気付かない多くのことを学ばせてもらっていると感じています」

その一つが、〝地域の人々がお互いを支え合う思いやりの心〟だという。孤児院には寺子屋が併設され、貧しくて学校に行けない子どもたちにも教育の機会を提供している。また、被災後に緊急支援として配られた1トンのコメは、混乱することなく貧しい家庭から順番に配布されたという。

「私たちは思いやる心を忘れがちなのではないでしょうか。地域への愛着も薄れています。自分を中心に半径3メートル。そこにいる家族や友人、隣人を思いやる心を持つことが国際協力へと踏み出す第一歩なのだと思います」

これまでに経験したことのない未曾有の災害から立ち上がろうとする人々がいる。そして復興プロジェクトを支援する人々がいる。伊吾田さんたちは今、タンリエンの人々から、心にたっぷりの栄養をもらっている。

地元の人々の協力で、寮兼シェルターの建設が進む

2009年5月に完成した全面鉄筋コンクリート製の寮兼シェルター

あなたの小さな一歩から始まる国際協力
世界の人びとのためのJICA基金

JICAでは、国際協力に関心のある日本の皆さまからの寄付を、開発途上国の貧困削減や環境保全への取り組みに活用する「世界の人びとのためのJICA基金」で受け付けています。皆さまのご支援をお待ちしております。

寄付金の使われ方

お寄せいただいた寄付金は、途上国の貧困削減、医療や教育の提供、環境問題の解決などに取り組むNGOの活動に充てられます。各支援活動や寄付金事業収支についてのご報告は、「JICA寄付サイト」で公表します。

寄付の方法

「JICA寄付サイト」からお申し込み下さい。クレジットカードによる決済や、銀行・郵便振込みなどがお使いいただけます。
JICA寄付サイトURL：http://www.kifu.jica.go.jp/